

世田谷村日記

石山修武

八月二十三日

メディア研究所。打合わせ。淡路島の山田脩二さんより電話あり、来春の神戸県立美術館での「山田脩二の仕事展」の話し。カタログに何か書けとの話しで、喜んで引受ける。先日パークハイアットホテルで短時間会ったのだが何も話している時間が無かった。Mr. MKとCY・Leeの印象を「あの中国人何者だ。日本人には居ないよ、あのタイプは。堂々たるもんだったね」と流石彼は勘がよい。

HPの組換えを敢行する。

夕方、友岡Jr来室。アジアのペーパー・ビジネスに関して。農村プロジェクトとペーパー・ビジネスが組み合わさると面白い可能性が出現するな。

八月二十四日

午前中、母親を迎えに行く。親が年を取って、弱り始めるのを視るのは悲しいが、視る事が出来るだけでもよしとしなければならぬ。

十時半頃母と共に世田谷村に戻る。母、家の中を眺めて、怒る。片付いていない。自分の意見が一向に反映されていないと、直截であった。返す言葉が無い。要するに私の非力である。明日はオPCODE研究所の野辺公一さんが工務店、地域ビルダーの連中三十七名を連れて世田谷村見学会、意見交換会の予定である。多分、常識的に言えば最悪の状態を見てもらおう事になるが、それはそれ

で仕方がないだろう。野辺さんだけが群居の初期の精神であった、ハウジング計画ユニオンのヴィジョンを引き継いでいるような気がする。彼等には二十一世紀型農村研究会の話しをしてみるつもり。小さな脈絡はある筈だ。昼過、階下の土間でゴミを燃やす。午後、紙計画の骨子まとめる。

朝日新聞夕刊に英国人女性ヒラリー・リスターさんのヨットによるドーバー海峡単独横断の記事があった。リスターさんは四肢まひで、ストローを口にくわえて呼吸によってヨットを操縦したとの事。彼女の気力も凄いが、それを支えた周囲の人々の膨大な力に敬意を払いたい。良くそんな目標を建て、技術を開発、準備する粘りを持続したものだと感じ入る。スペース・シャトルに数倍するプロジェクトだこれは。資金をどうやって調達したのか気になる。こういう計画の為にはどんな金の集め方をしても良いと思うね。